

茨木市次世代育成支援行動計画 平成24年度(2012年度)実施状況報告書(案) 修正分

基本目標 1. すべての子育て家庭を支える環境づくり			主要課題 (1)地域での子育て支援サービスの充実	施策の方向 すべての家庭に対する子育て支援サービスの充実			
茨木市次世代育成支援行動計画(後期)掲載内容							
ページ(報告書)	事業	内容	行動目標	平成24年度の取り組みと実績	平成24年度の取り組みと実績の評価(効果及び課題)	今後の改善方法	担当課
53(1)	乳児家庭全戸訪問	生後4か月までの乳児のいる家庭を訪問し、親子の心身の状況や養育環境等を把握するとともに、育児に関する助言及び子育て支援に関する情報等の提供を行います。	継続	生後4か月までに家庭を全戸訪問 親子の様子を観察 子育て相談 子育てに関する情報提供 訪問完了家庭人数 2,561人 母子保健との連携	昨年度に引き続き、保健医療課との連携を持ち、重点訪問を行った。 必要に応じて積極的に適切な関係機関との同伴訪問等を行うとともに、支援の必要な家庭を見逃さず支援の導入を図った。	早期に保護者と相談できる環境を作ることが、児童虐待のひとつの予防につながることも、継続して実施する。	子育て支援課
54(1)	ショートステイ	保護者の病気や出産などで子どもの養育ができない場合、児童養護施設と連携し、緊急に対応します。	継続	市内3か所の児童養護施設で実施 利用世帯数、利用者数 11世帯16人 利用日数 57日	8月からレスパイトでの利用可能(年3回限度)になり、利用件数が増えた。 必要書類に費用がかからない書類でも可能にしたため、利用者の負担は軽減された。	継続して実施する。ホームページや広報だけでなく、様々な機会に周知を図る。	子育て支援課
54(1)	トワイライトステイ	保護者の仕事などが恒常的に夜間にわたる家庭の子どもの児童養護施設と連携して預かります。	継続	市内3か所の児童養護施設で実施 利用件数 0件	問合せ件数は増えたが、施設までの送迎困難や要件に「恒常的」とあるため、利用には至らない。	ファミリー・サポート・センター事業の活用もしながら、利用しやすい事業を目指す。継続して実施する。	子育て支援課
54(1)	ファミリー・サポート・センター	地域で育児の手助けをしてほしい依頼会員と手助けをする援助会員の相互援助活動により、仕事と子育てでの両立を支援します。	継続	説明会51回(うち出張説明会3回)参加者324人、個人説明6人、1日コース13回 講習会28回 参加者267人(うち出張講習会3回) 研修会6回 参加者157人 交流会7回 参加者151人 活動件数 6,433件 新規依頼件数 211件	ホームページの更新により、より多くの市民が入会しやすいよう情報提供を図った。それにより、ホームページを通じての問合せや申し込みが目立った。 ・広報誌配布前に定員に達してしまうことのないような入会説明会開催日の設定を行い、参加につながった。 ・会員整理(開設当初からの休会者対象)を行い、稼働会員の把握につながった。しかしながら、援助、両方会員の登録者が大幅に減少することにもなった。	・研修会や北摂各市との情報交換会等へ出席することにより、コーディネーターの資質向上を図り、依頼会員と援助会員との丁寧なマッチングに努める。 ・会員整理における、援助・両方会員の大幅な登録者数減を受け、最も効率の良い情報発信ツールを使って広報活動を進めるうえで、入会意欲が増すようなチラシ作成や、魅力ある研修及び交流会を打ち出す。	子育て支援課
54(1)	産前・産後ホームヘルパー派遣	産前・産後、体調不良のため家事や育児が困難な家庭や、多胎児を出産した家庭等にホームヘルパーを派遣します。	継続	利用件数 20件	利用件数は、前年比で1件減少した。委託先事業所の協力により、派遣希望日等について概ね利用者の希望に添うことができた。	派遣ヘルパーの資質向上を図りながら、継続して実施する。	子育て支援課
54(2)	一時預かり(一時保育)	保護者の急な外出や病気のため、家庭で子どもの保育ができない場合など、一時的に子どもを預かります。	量的充実	(子育て支援総合センター) 利用者数 2,247人 登録申請者数 744人	保育の空き状況をホームページにアップすることにより、予約状況が把握しやすくなった。	・予約方法の変更(利用日の1か月前)、定員を10から13人に増やす、利用回数を6回から4回にすることにより、より多くの人が利用できるようにする。 ・つどいの広場等でも一時保育を実施していることの周知を図る。	子育て支援課

基本目標 1. すべての子育て家庭を支える環境づくり			主要課題 (1)地域での子育て支援サービスの充実	施策の方向 各種相談機能・情報提供の充実			
茨木市次世代育成支援行動計画(後期)掲載内容							
掲載ページ	事業	内容	行動目標	平成24年度の取り組みと実績	平成24年度の取り組みと実績の評価(効果及び課題)	今後の改善方法	担当課
55(4)	子ども本人からの相談	子ども本人からのいじめ等の悩み相談を実施します。	継続	小学生2人 中学生0人	*子ども自身の相談は、カードを配った時には数件あるが、他の時期は少ない。特に、保護者からの相談は多いのに、子ども本人からの相談は少なく、課題が見えている。	・スクールソーシャルワーカー・スクールカウンセラー等も身近な相談窓口として活用しながら、子どもへの周知を徹底し、利用しやすい窓口として充実を図る。 ・いじめを受けているという相談だけでなく、第三者の相談にも焦点を当てて、学校での周知を進めていく。	教育センター

茨木市次世代育成支援行動計画 平成24年度(2012年度)実施状況報告書(案) 修正分

基本目標 1. すべての子育て家庭を支える環境づくり			主要課題 (2)子育て支援ネットワーク化の推進		施策の方向 家庭教育支援の充実		
掲載ページ	事業	内容	行動目標	平成24年度の取り組みと実績	平成24年度の取り組みと実績の評価 (効果及び課題)	今後の改善方法	担当課
茨木市次世代育成支援行動計画(後期)掲載内容							
56(7)	親支援プログラムの実施	子どもをもつ保護者が参加者同士で悩みや関心のあることを話し合いながら、子育てについて学び合う学習会を実施します。	継続	1回目12人(申込19人) 2回目12人(申込20人) 3回目12人(申込23人) 各回定員12人	市民ファシリテーターのメンバーがファシリテーターの資格取得のためのセッションを実施。今年度でファシリテーター養成講座を受けたすべてのメンバーが初回のセッションを終了する。	親支援プログラムのファシリテーターの資格を取得した方で、ファシリテーターバンクに登録して活動してもらえる方を2人づつペアにして、来年度の親支援プログラム(ノーバディスパーフェクトプログラム)は実施していく。24年度は3回実施、25年度は4回実施を予定している。また実施場所は総合センターだけでなく、市内の公共施設での実施を計画している。	子育て支援課
基本目標 1. すべての子育て家庭を支える環境づくり			主要課題 (2)子育て支援ネットワーク化の推進		施策の方向 子育て相互支援活動への支援		
掲載ページ	事業	内容	行動目標	平成24年度の取り組みと実績	平成24年度の取り組みと実績の評価 (効果及び課題)	今後の改善方法	担当課
茨木市次世代育成支援行動計画(後期)掲載内容							
57(8)	ファミリー・サポート・センター(再掲)	地域で育児の手助けをしてほしい依頼会員と手助けをする援助会員の相互援助活動により、仕事と子育ての両立を支援します。	継続	説明会51回(うち出張説明会3回)参加者324人、個人説明6人、1日コース13回 講習会28回 参加者267人(うち出張講習会3回) 研修会6回 参加者157人 交流会7回 参加者151人 活動件数 6,433件 新規依頼件数 211件	ホームページの更新により、多くの市民が入会しやすいよう情報提供を図った。それにより、ホームページを通じての間合せや申し込みが目立った。 「広報いばらき」による告知を考慮した入会説明会日の設定をし、市民が参加しやすいようにした。結果、広報誌配布後の申し込みにも、定員に達してお断りすることなく受け付けることができ、参加につながった。 ・会員整理(開設当初からの休会者対象)を行い、稼働会員の把握につながった。しかしながら、援助、両方会員の登録者が大幅に減少することになった。	・研修会や北摂各市との情報交換会等へ出席することにより、コーディネーターの資質向上を図り、依頼会員と援助会員との丁寧なマッチングに努める。 ・会員整理における、援助・両方会員の大幅な登録者数減を受け、最も効率の良い情報発信ツールを使って広報活動を進めるうえで、入会意欲が増すようなチラシ作成や、魅力ある研修及び交流会を打ち出す。	子育て支援課
基本目標 2. 仕事と子育てを両立できる環境づくり			主要課題 (3)仕事と子育ての両立を支援する保育サービスの充実		施策の方向 多様な保育サービスの充実		
掲載ページ	事業	内容	行動目標	平成24年度の取り組みと実績	平成24年度の取り組みと実績の評価 (効果及び課題)	今後の改善方法	担当課
茨木市次世代育成支援行動計画(後期)掲載内容							
61(15)	一時預かり(一時保育)[再掲]	保護者の急な外出や病気のため、家庭で子どもの保育ができない場合、一時的に子どもを預かります。	量的充実	(子育て支援総合センター) 利用者数 2,247人 登録申請者数 744人	保育の空き状況をホームページにアップすることにより、予約状況が把握しやすくなった。	・予約方法の変更(利用日の1か月前)、定員を10から13人に増やす、利用回数を6回から4回にすることにより、より多くの人が利用できるようにする。 ・つどいの広場等でも一時保育を実施していることの周知を図る。	子育て支援課
61(15)	病児・病後児保育	病院・保育所等において病気の児童を一時的に保育するほか、保育中に体調不良となった児童への緊急対応等を行います。	量的充実	・病児保育(病児対応) 私立病院2か所(定員各6人)553人 ・病後児保育(病後児対応) 私立保育園2か所(定員各2人)117人 ・病後児保育(体調不良児対応) 市内保育所33か所	病児保育については、対象児童を小学3年生までに拡大し、利用者の増加に努めている。 病後児保育については、平成26年度の目標値の達成(34か所)に向けて、取り組みが必要がある。	病児保育については、更なる周知を図るため、見学会を実施する予定である。 病後児保育についても、利用者が少ないことから、平成26年度の目標値の達成(34か所)に向けて、制度の見直しに取り組む。	保育課 (現: 保育幼稚園課)

茨木市次世代育成支援行動計画 平成24年度(2012年度)実施状況報告書(案) 修正分

茨木市次世代育成支援行動計画(後期)掲載内容							
掲載ページ	事業	内容	行動目標	平成24年度の取り組みと実績	平成24年度の取り組みと実績の評価 (効果及び課題)	今後の改善方法	担当課
61(15)	ショートステイ【再掲】	保護者の病気や出産などで子どもの養育ができない場合、児童養護施設と連携し、緊急に対応します。	継続	市内3か所の児童養護施設で実施 利用世帯数、利用者数 11世帯 16人 利用日数 57日	8月からレスパイトでの利用可能(年3回限度)になり、利用件数が増えた。必要書類に費用がかからない書類でも可能にしたため、利用者の負担は軽減された。	継続して実施する。 ホームページや広報だけでなく、様々な機会に周知を図る。	子育て支援課
61(15)	トワイライトステイ【再掲】	保護者の仕事などが恒常的に夜間にわたる家庭の子どもを児童養護施設と連携して預かります。	継続	市内3か所の児童養護施設で実施 利用件数 0件	問合せ件数は増えたが、施設までの送迎困難や要件に「恒常的」とあるため、利用には至らない。	ファミリー・サポート・センター事業の活用もしながら、利用しやすい事業を目指す。継続して実施する。	子育て支援課
61(16)	ファミリー・サポート・センター【再掲】	地域で育児の手助けをしてほしい依頼会員と手助けをする援助会員の相互援助活動により、仕事と子育ての両立を支援します。	継続	説明会51回(うち出張説明会3回)参加者324人、個人説明6人、1日コース13回 講習会28回 参加者267人(うち出張講習会3回) 研修会6回 参加者157人 交流会7回 参加者151人 活動件数 6,433件 新規依頼件数 211件	ホームページの更新により、より多くの市民が入会しやすいよう情報提供を図った。それにより、ホームページを通じての問合せや申し込みが目立った。 ・広報「いばらき」による告知を考慮した入会説明会日の設定をし、市民が参加しやすいようにした。結果、広報誌配布後の申し込みにも、定員に達してお断りすることなく受け付けることができ、参加につながった。 ・会員整理(開設当初からの休会者対象)を行い、稼働会員の把握につながった。しかしながら、援助、両方会員の登録者が大幅に減少することにもなった。	・研修会や北摂各市との情報交換会等へ出席することにより、コーディネーターの資質向上を図り、依頼会員と援助会員との丁寧なマッチングに努める。 ・会員整理における、援助・両方会員の大幅な登録者数減を受け、最も効率の良い情報発信ツールを使って広報活動を進めるうえで、入会意欲が増すようなチラシ作成や、魅力ある研修及び交流会を打ち出す。	子育て支援課

基本目標 3. 子どもの人権を尊重し、豊かな個性を育む環境づくり
 主要課題 (1)就学前教育・保育の充実
 施策の方向 保育所保育の充実

茨木市次世代育成支援行動計画(後期)掲載内容							
掲載ページ	事業	内容	行動目標	平成24年度の取り組みと実績	平成24年度の取り組みと実績の評価 (効果及び課題)	今後の改善方法	担当課
64(18)	子どもの健康管理	定期的に身体測定、健康診断等を行い、子どもの発育・発達状況を把握し、家庭と連携をとりながら健康増進を図ります。保護者と主治医の連携を密にし、子どもの健康と安全の確保に努めます。	継続	子どもの健康管理には細心の注意を払って実施している。 <公立保育所実施状況> ・毎月の身体計測(体重、身長は年3回) ・内科検診(年3回) ・眼科検診 受診児 1,096人 ・歯科検診 受診児 1,103人 ・耳鼻科検診受診児 1,099人 ・与薬(アトピー性皮膚炎、気管支喘息、熱性けいれん等)83件対応している。	すべての検診後の要受診児の割合などは昨年と変わりはないが、保護者との連携を密に行ってきた。	公立・私立の保育所とも今後も継続して、子どもの健康と安全に努める。	保育課 (現:保育幼稚園課)

基本目標 3. 子どもの人権を尊重し、豊かな個性を育む環境づくり
 主要課題 (2)特色のある学校教育の充実
 施策の方向 不登校・ひきこもり・いじめ対策の推進

茨木市次世代育成支援行動計画(後期)掲載内容							
掲載ページ	事業	内容	行動目標	平成24年度の取り組みと実績	平成24年度の取り組みと実績の評価 (効果及び課題)	今後の改善方法	担当課
68(24)	子ども本人からの相談【再掲】	子ども本人からのいじめ等の悩み相談を実施します。	継続	小学生2人 中学生0人	・同じ保護者からの複数回の相談という件数が数件あり、相談業務として、信頼性があると考えられる。 ・子ども自身の相談は、カードを配った時には数件あるが、他の時期は少ない。特に、保護者からの相談は多いのに、中学生自らの相談は少なく、課題が見えている。	・スクールソーシャルワーカー・スクールカウンセラー等も身近な相談窓口として活用しながら、子どもへの周知を徹底し、利用しやすい窓口として充実を図る。 ・いじめを受けているという相談だけでなく、第三者の相談にも焦点を当てて、学校での周知を進めていく。	教育センター

茨木市次世代育成支援行動計画 平成24年度(2012年度)実施状況報告書(案) 修正分

基本目標 3. 子どもの人権を尊重し、豊かな個性を育む環境づくり			主要課題 (4)子どもの視点を取り入れた社会づくり		施策の方向 「児童の権利に関する条約」の啓発・普及の促進		
----------------------------------	--	--	---------------------------	--	------------------------------	--	--

茨木市次世代育成支援行動計画(後期)掲載内容							
掲載ページ	事業	内容	行動目標	平成24年度の取り組みと実績	平成24年度の取り組みと実績の評価 (効果及び課題)	今後の改善方法	担当課
72(30)	子ども本人からの相談(再掲)	子ども本人からのいじめ等の悩み相談を実施します。	継続	小学生2人 中学生0人	・同じ保護者からの複数回の相談という件数が数件あり、相談業務として、信頼性があると考えられる。 ・子ども自身の相談は、カードを配った時には数件あるが、他の時期は少ない。特に、保護者からの相談は多いのに、中学生自らの相談は少なく、課題が見えている。	・スクールソーシャルワーカー・スクールカウンセラー等も身近な相談窓口として活用しながら、子どもへの周知を徹底し、利用しやすい窓口として充実を図る。 ・いじめを受けているという相談だけでなく、第三者の相談にも焦点を当てて、学校での周知を進めていく。	教育センター

基本目標 4. 子どもを生み、育てやすい環境づくり			主要課題 (2)ひとり親家庭への支援の充実		施策の方向 相談・支援体制の充実		
---------------------------	--	--	-----------------------	--	------------------	--	--

茨木市次世代育成支援行動計画(後期)掲載内容							
掲載ページ	事業	内容	行動目標	平成24年度の取り組みと実績	平成24年度の取り組みと実績の評価 (効果及び課題)	今後の改善方法	担当課
76(36)	ひとり親家庭の相談・支援	母子自立支援員がひとり親家庭等の保護者からの相談について、子ども家庭センターと連携を図り対応を行います。また、母子家庭等の保護者に対しては、養育費が確保できるように、啓発及び情報提供を行います。	継続	相談件数 1,206件 (内訳) ・母子 990件、未婚者 33件、離婚前 194件、 ・父子 16件 離婚前 6件	長引く不況も影響し生活困窮等の相談は増えている。相談者に応じて各種制度等の案内に努めた。	父子家庭も対象になることの周知を図り、継続して実施する。	子育て支援課 (現:こども政策課)

基本目標 4. 子どもを生み、育てやすい環境づくり			主要課題 (2)ひとり親家庭への支援の充実		施策の方向 就労支援の充実		
---------------------------	--	--	-----------------------	--	---------------	--	--

茨木市次世代育成支援行動計画(後期)掲載内容							
掲載ページ	事業	内容	行動目標	平成24年度の取り組みと実績	平成24年度の取り組みと実績の評価 (効果及び課題)	今後の改善方法	担当課
77(38)	資格取得・技能習得のための支援	母子家庭の母が資格取得、技能習得等のために講座を受講した場合の受講料の一部や、長期訓練中の一定期間の生活費を補助します。	量的充実	・自立支援教育訓練給付金支給件数 1件 ・高等技能訓練促進費支給件数 13件	前年比、自立支援教育訓練給付金は2件減、高等技能訓練促進費は4件減となっているが、自立支援教育訓練については、相談者に応じて有利な類似制度(本制度と併用不可)を案内したため実質は減少ではない。高等技能訓練促進費については、制度の改正(支給額の減額)も影響しての減少である。両事業の事前相談においては母子自立支援員による適正な見極めに努めている結果、支給者の就業実績は高く自立支援に貢献している。	平成25年度から父子家庭も対象となることも含め、一層の制度の周知・普及に努める。	子育て支援課 (現:こども政策課)

基本目標 5. 安心して子育てができる環境づくり			主要課題 (2)子育て家庭への経済的支援の推進		施策の方向 各種支援制度の充実		
--------------------------	--	--	-------------------------	--	-----------------	--	--

茨木市次世代育成支援行動計画(後期)掲載内容							
掲載ページ	事業	内容	行動目標	平成24年度の取り組みと実績	平成24年度の取り組みと実績の評価 (効果及び課題)	今後の改善方法	担当課
85(49)	資格取得・技能習得のための支援(再掲)	母子家庭の母が資格取得、技能習得等のために講座を受講した場合の受講料の一部や、長期訓練中の一定期間の生活費を補助します。	量的充実	・自立支援教育訓練給付金支給件数 1件 ・高等技能訓練促進費支給件数 13件	前年比、自立支援教育訓練給付金は2件減、高等技能訓練促進費は4件減となっている。両事業の事前相談においては母子自立支援員による適正な見極めに努めている結果、支給者の就業実績は高く自立支援に貢献している。	平成25年度から父子家庭も対象となることも含め、一層の制度の周知・普及に努める。	子育て支援課 (現:こども政策課)

その他質問・意見

計画(実施状況)ページ	質問・項目	回答・意見
78(40)	早期療育指導・相談 学童期の療育サービスは？ 拡充の予定は？	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちへの指導は、療育という視点ではなく、指導のあり方として、ソーシャルスキルトレーニングを行っています。 ・通常学級においても、ユニバーサルデザインを取り入れた教育環境・指導の方法等も取り入れている。
	公立小・中 支援の必要な子どものサポートが遅れている。	<ul style="list-style-type: none"> ・小・中学校支援教育サポーター配置(単に支援の必要な子のみへの対応ではなく、支援の必要な子と周りの子をつなぐような支援も行う。支援介助員は、非常勤で特別な資格もなく、サポートに限界。また、学童保育には不在。 ・スクールソーシャルワーカー(有償ボランティア 1日5時間、35日/年 学校巡回) ・かけもちで3～4回/月学校に来る。中学校の対応で手いっぱい、小学校に行く時間がない状況。 ・スクールカウンセラー(全中学校、小学校22校配置) ・今後子どもと保護者のニーズに対応できるようにしていきたい。
	学力的なサポートについて	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後学習教室(モデル校の実施) ・元教員がチーフとなり、学生をボランティアとして雇用し、希望する子に学習指導を実施 ・土曜日の学習教室(モデル校実施) ・H25年度から、中学3年生対象に、部活終了した2学期から、無償で学力向上の取組を実施 ・子どもに応じた進路選択ができるような内容で実施
	中学校給食を採択せず、ほとんど利用のないランチ弁当配達理由は？	<ul style="list-style-type: none"> ・給食実施の費用対効果 ・栄養士が考えて工夫した献立のランチの取組を実施 ・中学生は人と違うものを注文するのが恥ずかしい
	今後の市の児童虐待対策は？	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児の全戸訪問の時期から保護者と相談できる環境を作ることが、ひとつの予防につながる。 ・保護者が孤立しないような対策が必要。 ・つどいの広場や気軽に出向ける場所の提供も重要(現在市内12か所) ・保護者支援では「こども相談室」が子育て支援総合センターの中にあるが、制度や情報が市民に届いていくよう周知する。 ・虐待をしている保護者は決して特別な存在ではない。ホームヘルパーやサポートの促進を。
84(48)	登下校への見守り活動への支援	<ul style="list-style-type: none"> ・H25年度で小学校の受付員は午前中廃止になり、地域のボランティアに委譲する。 ・引き続き見守りを行い、かつ地域ボランティアにプラスアルファで携わってもらいたい。
85(49)	乳幼児医療費の助成 財政的に拡大可能？	<ul style="list-style-type: none"> ・所得制限については当面維持、対象年齢についてはここでしばらく様子を見たい。
61(14)	主要課題(3)仕事と子育ての両立を支援する保育サービスの充実 土・日・祝日という考えは今後も維持するのか？	<ul style="list-style-type: none"> ・ニーズ調査で土・日の利用希望を把握し、委員のみなさんに意見を頂きながら検討したい。
	保育所民営化で、公立が減り、私立は保護者負担が大きい	<ul style="list-style-type: none"> ・設備運営基準で保護者が選択したサービス、民間のそれぞれの特色ある保育の部分に対する徴収。 ・公立には見直す点もある。
	私立幼稚園に通わせている保護者には補助金がある	<ul style="list-style-type: none"> ・私立幼稚園は、園と保護者との直接契約で保育料にも差があるため、就園奨励費・保護者補助金がある。 ・保育所は条例により、公立・私立ともに保育料同額。 ・施設内保育園、企業内保育、個人のベビーシッターなど多様な保育形態があり、漏れる人がいるので検討を。
	待機児童解消方針 潜在的待機児童は考慮している？	<ul style="list-style-type: none"> ・この方針上の見込は、過去の茨木市の保育事業の状況や、幼稚園や保育所の利用割合を見て設定している。 ・今回のニーズ調査で需要量の把握をしっかりとしていきたい。
	認可保育所と認可外保育所の保育の質の差が気になる	
	保育ママの一定の保育の質の担保は？	<ul style="list-style-type: none"> ・国のガイドラインによる従事者「保育士・看護師・幼稚園教諭・その他の者」 ・市町村は、保育従事者研修を実施、基礎研修、認定研修、フォローアップ研修を実施 ・まず、認可保育所の整備、次に、緊急一時保育事業、その次に認可外運営支援事業の拡充、それでも不足している場合に、ニーズ調査の結果等も踏まえて保育ママを検討する。
	駅前保育ステーションの取組(池田市実施)を茨木でも行える？	<ul style="list-style-type: none"> ・メリット・デメリットを検討しながら、実用に応じた形かどうか研究したい。
54(1)	ショートステイ・トワイライトステイ 児童養護施設は24時間、365日対応している。	<ul style="list-style-type: none"> ・市は、夜間・週末の受付対応なし。 ・委託するなど、受付業務を24時間・365日対応にしてもらいたい。